

# 新飯能

発行 日本共産党  
飯能市委員会  
973-1091

金子とし江 972-6401  
山田とし子 973-4710  
新井たかくみ 978-0175  
滝沢おさむ 972-3875

<議員団の連絡先>  
973-2111(市役所416)  
Mail jcp-sigi@pluto.plala.or.jp

## 消防再編 広域組織

### 救急・消防大丈夫？

### 稲荷町分署の見なおし

飯能市と日高市、狭山市で構成している西部広域消防事務組合（管理者＝沢辺瀧彦市長）で、組織改編問題が議論になっています。

平成十七年度、飯能市、日高市の助役・総務部長で消防組織改編協議会が組織され、六回の協議を重ね、平成十七年十月に両市長に提案されました。こうしたもとで、十一月に管理者である沢辺市長に対し、次の内容が指されました。

一、日高消防署を飯能消防署と統合すること。

二、稲荷町分署も今後、見直しが必要となるが新たな立地については、日高消防署の統合を視野に入れ、検討すること。



この提案に対して、日高市議会では、「日高消防署の統合は、事実上の廃止で認められない」と猛反発が出ています。もし日高消防署が廃止ということになれば、東吾野の一部白子地域なども管轄であり、影響が出てきます。

稲荷町はどうなる？  
稲荷町消防分署について

第四回奥むさし駅伝競走大会は一月二十九日、東飯能西口をスタート、西吾野駅折り返す六区間、三九・五八kmのコースで開催され、高校の部四九、一般の部一四三の合計一九二チームが参加しました。今年の冬は特別に寒いと言われるなか、当日は晴天のもと風も無く、走ると額から汗が落ちる

要がある」とのことです。稲荷町消防分署は、市街地はもとより、美杉台、南高麗、原市場の一部までが管轄であり、慎重な検討が必要です。

これらの組織改編は、十九年度からの消防十ヶ年整備計画に位置づけられるもので、市民及び議会に対して十分な説明と理解、納得が得られるものでなければなりません。「行政改革」の名のもとに「五分救急八分消防」を目標に整備されてきた消防力が後退するようないことがあってはなりません。

### 第四回奥むさし駅伝

### 一九二チームが力走

天候になりました。色とりどりのユニフォームを身につけ、それぞれの思いで任せられた区間を力走するランナーは、春のあじさい街道に一足先に花を咲かせたようでした。今年はナンバーカードに各チームの名前が書き込まれる工夫もされ応援者からも好評でした。この駅伝には日本共産党

### 山手町用地の土地利用問題について

先週号の山手町用地の報道に関して、「二〇億円を超える土地買収がいかに計画性と必要性がないものであつたか」との記事は理解できないという声が寄せられました。誤解を招く表現でしたので、改めて考え方を示したいと思います。

土地開発公社が山手町用地を購入しても取得目的通りに活用されないまま六年も経過し、塩漬け状態にあること自体が問題であり、「図書館建設など教育文化ゾーンとして取得したわけですから、市民が望む図書館建設や第一保育所の移転など早期に具体化することが必要だ」と考えます。



各チームの成績は次のとおり。  
高校の部 一位 埼玉栄高校  
A（二時間六分）  
二位 東京農大三校  
A・三位 東京農大三高B  
四位 武蔵越生高校  
五位 埼玉栄高校B  
六位 早稲田実業A  
一般の部 一位 ポッシュ（時間一分）  
二位 新電元工業  
三位 中央大  
四位 小手狭山RC

五位 城西大学  
六位 チームGO。なお、地区協会の部では、一位 吾野体協  
カントリーRC（二時間二分二三秒）  
二位 原市場体協  
三位 東吾野体協  
四位 精明体協  
五位 南高麗体協でした。

### 紋 紋

もう立春です。梢が雨でけむっているように見えます。厳しい寒さの中でも木々が一日一日新しい芽をふくらませているのでしよう。冬萌という俳句の季語もあります。人間が寒い寒いとちこちこまっているなかでも、季節が確実に準備をしている姿を見ると元気が出ます。政治の世界でも「冬萌」は起きているのかもしれませんが、ただそれがまだ深い混沌の中にあつて、私たちに見えなただけなのかも。ライブドア事件で経済評論家の内橋克人氏は「堀江貴文氏と小泉政治はウリ二つの『合わせ鏡』だ」と喝破して「人の心もカネで買える」と「社会保障など不要」と公言した人物を選挙で応援し市民権を与えた小泉政治にこそ問題の根源があることを指摘しています。▼ホリエモンは悪いが、改革は止めるべきではない式の論調が横行するなかで胸のつかえがおりるような明快な論理です。容疑者を天までもちあげていたメディアにも恥じることはないのかという氏の問いかけにもメディアは真剣にこたえてほしいものです。



# 吾野・東吾野・原市場・南高麗・名栗

## 山間地域振興計画の検討すすむ

吾野、東吾野、原市場、南高麗、名栗の五地域を対象に、飯能市山間地域振興計画が検討されています。

この計画は、平成十八年から二十二年までの五年間の計画で、第四次総合振興計画の補完的な役割として位置づけられています。「地域の魅力と人が織りなす活力の創造に向けて」と題するこの計画は、団体用プログラムメニューとして十一事業。地域内グループ用として十二事業。個人用として六事業があげられ、補助金が出されます。未給水地域解消促進事業（限度額戸数×三五万円）、景観間伐促進事業（作業賃金）、活動拠点整備促進事業（限度額二〇〇万円）以外はソフト事業が中心になっています。



### プログラムメニュー案

- ①花による地域づくり事業
- ②ハイキング道周辺景観間伐事業
- ③農作物等販売事業
- ④特産品による地域づくり事業
- ⑤体験型観光事業
- ⑥山里料理提供・販売事業
- ⑦地域で見守る子育て事業
- ⑧健康増進・介護予防推進事業
- ⑨身の回り応援サービス事業
- ⑩活動拠点整備事業
- ⑪アドバイザー派遣事業
- ⑫未給水地域解消事業（共同給水施設整備補助金Ⅱ既存補助事業）
- ⑬体験型観

光事業⑭森づくり推進事業などがあります。要領・要項はこれから

## 太田市がすすめる「行政改革」

### 日本共産党議員団が視察

日本共産党飯能市議団の山田利子・滝沢修の両議員は一月三〇日、NP

Oに市の業務委託を進めている群馬県の太田市を視察しました。太田市では平成十一年に「NPO活動促進市民委員会」を設け、市主導でNPOの促進に積極的に努めて来ました。現在一八〇名の有償ボランティアが登録され一日当たりでは七六名の方が従事して庁舎の案内や広報業務、図書館、福祉施設の業務を行っています。視察では最初に市の担当からNPOの活用により大幅に人件費の削減ができたこと、また図書館の開館日の拡大などにつ

になりませんが、「希望者（団体）ができれば予算的には心配しなくてもよい程度を考えている」としています。

審議委員の新井たくみ市議は、審議会で「山間地域で課題となっている足の確保や未給水地域の

解消などは、四総にしつかり位置づけること、収益を上げるものは別として、遊休地の解消、地域の景観整備などや地域の福祉活動など公益的な活動については、自己負担はなしでいいのではないかと求めました。

いて説明を受けました。その後、井野共産党市議との懇談では、当初市は委託契約に際してNP O就業者の人件費については、ボランティア活動に対する謝礼として、当

## 原告の総力をあげて運動を

### 政党助成金訴訟の会総会開く

一月二八日、富士見公民館で「政党助成金訴訟の会」の第五回総会が開かれました。

昨年末には、小泉首相が、政党助成金の中から『もち代』として自民党議員に三〇〇万〜四〇〇万円配ったことが報じられ国民の怒りをつつぱかりです。政党助成金は憲法違反であり、税金による政党助成で思想信条

## なんでも相談会

とき **2月19日** (日)  
午前10時～午後3時  
ところ **宮本会館**  
(山手町・高橋ストアーとなり)

リストラ、サラ金、不払い、年金、国保税滞納など何でもお気軽にご相談ください。

弁護士、税理士、社会保険労務士など法律・税務・年金などの専門家と日本共産党の4名の市議会議員が対応します。

額の補助金が必要になつていると言います。

太田市の行革についてはテレビ報道もされていますが、報道はされない多くの問題点を実感した視察となりました。

の自由、政党への寄付の自由が侵害されているとして東京地裁に提訴して、今年には五年目を迎えます。訴訟はいよいよ最高裁での裁判闘争に移っており、より強力な運動が求められています。

## 自民党「新憲法草案」は戦争への道

総会後の記念講演では、弁護団長の久保賢一弁

護士から『もしも憲法が変わったら…どうなる私たちの暮らして平和』と題して講演が行われ、自民党が昨年十一月に発表した「新憲法草案」について詳しく解説しました。「改憲」ではなくなぜ「新憲法」なのか。新しいというイメージづくりがねらい。しかし、武力の行使に憲法上の制約をはずすため、九条二項を削除。改憲の規定を両院の総議員の三分の二から各院の過半数へと大きく緩和しようとしています。国民の権利は制約され、戦争への協力を義務付けられることになる。今必要なのは、戦争への道ではなく、貧困、差別、病気をなくすための方策を考えるべきだと訴えて終了しました。